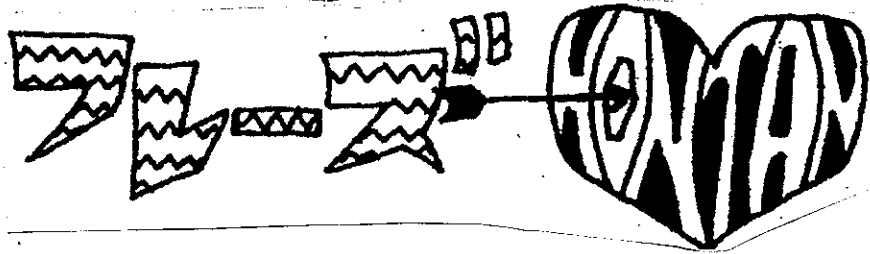


# HONTAN

図書館ボランティア「本探」が 第40号  
旬の図書館情報をお知らせします☺

ワクワクな情報が  
いっぱい!!  
2013年  
8.9合併号



今回のHONTAN7ページのテーマは、  
『告白のせりふ』  
自分の思いを人に伝えるのはとても大変。

伊之江のオズ×!! ○ 村上春樹 9/3.6/M-6  
...○...○...○ 『1/17のエの森』  
「もし、君が使え今必要として  
いるなら、僕を使えばいいんだ」  
「一緒にいてくれるなら、僕の重荷にならないう」  
と悩む彼女に言ったセリフ

子一のオズ×!! ○ 山田悠介 9/3.6/Y-11  
...○...○...○ 『オーレ』  
「おんな母ちゃん、今までずっと嘘ついて  
一流企業に就職して、息を吐いて、息子の一言

麻子のオズ×!! ○ 瀬尾まに 9/3.6/S  
...○...○...○ 『幸福な食卓』  
「父さんは今日で、  
父さんを締めようと思う」  
家族の再生の物語。

かほろのオズ×!! ○ 滝本竜彦 9/3.6/T  
...○...○...○ 『NHKによろこび』  
「佐藤くんなら、あたしを  
好きになってくれるよね。」  
〈夕で寂しい人間〉を求めた彼女からの告白

ハルカのオズ×!! ○ 綿矢りさ 9/3.6/W  
...○...○...○ 『かわいそうだね?』  
「どないせ、ちゅうわん!」  
我慢の限界です、反撃します。

のすけのオズ×!! ○ 万城目学 9/3.6/M  
...○...○...○ 『ホビー-六景』  
「どうして、告白しないんですか?」  
好きなのに好きの人に告白しない  
ことに対して言った言葉。

あんのオズ×!! ○ 道尾秀介 9/3.6/M  
...○...○...○ 『カラスの親指』  
「自分には、これかなんか  
カラスさん、最後の種明かしの台詞です。

舞のオズ×!! ○ ヘルマン・ハッセ 9/43/H  
...○...○...○ 『車輪の下』  
2次創作/若狭文庫  
「ねえきみ、ぼくは残念なんだ」  
友人に許して言うための告白

鶏のオズ×!! ○ 桜庭一樹 9/3.6/S-2  
...○...○...○ 『GOSICK Ⅳ 下』  
「世界がどう変わろうとも、  
これ型、君と離れるもんか」  
時が経っても、変わらない。

びわこのオズ×!! ○ ゲーテ 9/43/G  
...○...○...○ 『若きウェルテルの悩み』  
2次創作/若狭文庫  
「さようなら、愛するウェルテル!」  
彼の悲苦に投げかけられる容赦のない言葉

りゅうのオズ×!! ○ 有川浩 9/3.6/A  
...○...○...○ 『ワジラの彼』  
「振けようか。」  
彼が彼女を言った告白。

カインのオズ×!! ○ 村山由佳 9/3.6/M  
...○...○...○ 『天使の印』  
「...あなた以外に誰がいますか」  
元彼女の姉に放った言葉。

米季のオズ×!! ○ 東野圭吾 9/3.6/H  
...○...○...○ 『マスカレード・ホテル』  
「あの夜のことは、  
あたしは忘れたことがない」  
憎しみに囚われる彼女が放った台詞

七味のオズ×!! ○ 湊かなづ 9/3.6/M  
...○...○...○ 『告白』  
「愛美は、このクラスの生徒に  
殺されたのです。」  
一人娘を失った女教師の一言。

珠のオズ×!! ○ ヴィルヘルム・ゾラ 9/83/T  
...○...○...○ 『巨匠』  
閑架 (CS900929)  
「死んでも可いわ...」  
「月が綺麗ですね」に逆が名翻訳家。  
元はロシア文学だったらしい。

HONTAN  
雑誌の記事を  
紹介☺  
Pick up  
MAGAZINES

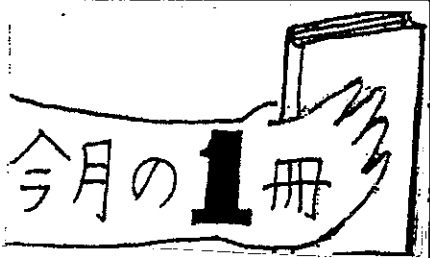
a+u No. 514

エ飾っている建物は、スペインにあるコルドバ美術館です。この美術館の壁には、夜になるとLEDによって光る開口があります。展示スペースでは、屋根から太陽の光が落ち、優しい空間にしています。また、オーストリアの小学校でも、外からの光を効果的に教室に入れるように、天井を網状にしたり、光が建物全体を通るように設計したり、様々な工夫がなされています。日本には無いような建物の写真がたくさん掲載されているので、ぜひ読んでみてください。

特集は、光をまとめる架橋ということで、光を効果的に使った建築物が多く掲載されています。表紙のエ飾っている建物は、スペインにあるコルドバ美術館です。この美術館の壁には、夜になるとLEDによって光る開口があります。展示スペースでは、屋根から太陽の光が落ち、優しい空間にしています。また、オーストリアの小学校でも、外からの光を効果的に教室に入れるように、天井を網状にしたり、光が建物全体を通るように設計したり、様々な工夫がなされています。日本には無いような建物の写真がたくさん掲載されているので、ぜひ読んでみてください。

〈七味〉

# 『太陽の塔』 森見登美彦 9/3.6/M



ちなみには、これは世間で言う「ストーリー」であり、そして、この水尾さん研究を揺るがす事態が起きるところから、この話は展開していきます。

冒頭の独白からわかるように、主人公は一癖も二癖もある人間であり、偏った思考をもっています。そして、言動も何だかよくわからん人なのです。一言で言うなら「阿呆」。ただ、もう一言つけ加えるなら「愛すべき」阿呆。何だか憎めないのです。皆様の周りにいませんか、やることなすこと失敗ばかり。「いい加減にしよ!」と思うけども、なかなか放っておけないような人。本作の主人公はそんな感じです。本作の魅力は、この主人公に憑きると言っても過言ではありません。そんな主人公を遠巻きから、のぞり覗き、そしてよく笑む感じが楽しめちゃうのです。最高ですね。まあ、おれさんもおのぞり主人公を覗き込んでみませんか... あれ? これってもしか、私のほうがストーリー...?

<のぞみ>



## 『夏目漱石』を語り始めるなら → 『坊っちゃん』

誰もが一度は聞いたことがあるであろう作家、夏目漱石。しかし、聞いたことがあっても、本は読んでいないことが多い。あるいは、高校などの教科書に載っているものしか読んでいない。そんな人が多いいのではないだろうか。彼の作品は、どれも独特な文章表現で、素晴らしい言い回しが数々ある。そのため、夏目漱石の本を語り始めるにしても、なかなか手に取りづらいというも事実である。そこで、彼の作品のひとつである、『坊っちゃん』を紹介したい。



この作品は、無鉄砲で、不器用だが、正義感あふれる青年「坊っちゃん」が、中学の数学教師として赴任し、そこで出会う生徒や教員たちとの人間関係に真正面から立ち向かい、挑んでいく物語である。話がテンポ良く進んでいき、主人公の葛藤など、もどかしい場面もあるが、最後は痛快でスカッとする気持ちにはなる。そんな作品だと思う。彼の作品の中で、語りやすい文章「はじめて読む人にもおすすりだ」。

まだ夏目漱石の本を読んでいない。でも読んでみたい! そんな人にはぜひ、『坊っちゃん』を一度手にとって、読んでほしい。夏目漱石の独特の文学の世界に、触れてみたいかがただろうか。

<かたごち>

## 『スワロウテイル』 7/8.72/S

岩井俊二監督の作品。あらゆる通貨の「円」が世界で一番強い時代々に大儲けしようとして日本にやってきた外国人たちが繰り広げる物語です。外国人たちは何軒も「円都(イン・タウン)」と呼ぶ。日本に来た外国人たちを、日本人は「円盗(イン・タウン)」と呼んでいました。劇中では、互いが卑下しあっているように見えます。

この作品は、当時の社会問題として考えられていること、また、これから社会問題となることを映して、映画でどう表現しているかと思ってしまう。内容的にも、たくさん考えさせられることが多く、飽きさせません。

もしかしてはこんな日本の姿があるのか? と考えてしまうかもしれません。大学生の戦いに多くの問を与えてくる作品だと思えます。

<傘>

## 編・集・後・記

夏にはまた、いんぽ出版で「夏フェス」というものが行われます。書店の自立とここに、(おきり)並ぶ本屋の存在は、私にもこの間並んでほめて見て、大量購入してしまいました。(笑) 外にきて冷たい汗にとびとびも鼻息ですが、クレーンがたつて、文字の海にとびとびも楽しいです。

<まろ>

## 学生展示

今回は、主人公が女性の推理小説を集めました。『横溝の宮部みゆき』『謎解きはディナーのあとで』の東川篤哉から、七河由南、渡辺容子、北村薫、など幅広く集めました。

推理小説という、どうしても読むと作者が偏ってしまうことが多いと思います。しかし、色んな作家の作品を語り始めることで、世界が広がると思います。この機会に、気持よく作者の作品を語りませんか。

今回の帯展示のテーマは「ホラ〜おミステリー!!」近頃はじめじめと蒸し暑い、気分はいいでも涼しくないので、今回は、今回紹介する本を語り始める。というのはいかがでしょうか。

夏はホラ〜、というのはいりてり。たいてい、見た後は、私たちに期待通り涼しくしていただきます。

夏夏盛りこの時期に、背筋が凍るような怖い本を語り、暑さを忘れませんか。

## 帯展示

